

国 労 水 戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 大和田亨
編集責任者 坂本公則

当面する闘争方針を確立

第82回定期全国大会を開催

国労本部は、7月25日（26日の二日間の日程で、第82回定期全国大会を静岡県伊東市内で開催しました。大会は、一年間の総括とJRの安全輸送確立、



真摯な討論を行いう各地方の代議員

職場における労働条件改善、JR及びグループを含む非正規労働者の正社員化及び処遇の改善、国労の最重要課題である組織拡大、原発再稼働反対、平和の課題、2014年

春闘など向こう一年間の闘う方針と意志を固めました。

大会挨拶で石上浩一執行委員長は、安倍政権による「解雇自由」をはじめめ労働法制の改悪の動きを批判しました。また、憲法改悪の動きに拍車をかけていることに對し、平和と民主主義を守る闘いを大きく広げようと呼びかけました。

安全問題では、石勝線の脱線・火災事故などトラブルが相次いでいることを指摘し、安全・安定輸送の確立のため「健全な労使関係の確立と職場環境の改善、雇用の確保と社員の生活向上などを目指さなければならない」と強調しました。

最後に組織の最重要課題である組織強化・拡大に向けて全組合員の力を結集し闘いを進めようと呼びかけました。

2013年度中央執行委員会の成立について

国労は第82回定期全国大会を7月25日（26日）に静岡県伊東市において開催した。

大会では、JRに働くすべての労働者の地位向上と労働条件の改善、安全・安定輸送と健全な労使関係の確立、三島・貨物会社及び並行在来線・地方交通線の維持・活性化、JR三島ならびに貨物会社への経営支援策の拡充や地方交通線の維持・活性化など持続可能な総合交通政策の実現、2014年春闘、平和憲法を守る闘いなど、山積する諸課題に対する取り組み

の継続・強化をはかる具体的方針を確立した。あわせて、これまでの全国統一行動の成果の上に立つて、喫緊の課題である組織の強化・拡大に向けた真剣な議論が行われ、満場一致で運動方針を決定した。

本部は、7月26日、第1回中央執行委員会を開催し、中央執行委員会の成立と当面する闘いの展開について決定したので、以下のとおり指令する。

《指令》
中央執行委員会の成立について
中央執行委員長（専）石上浩一

- （総括、政治・共闘担当）
中央執行副委員長（専）田中博文
（組織部長、法対部長）
書記長（専）真子俊久（企画部長、教宣部長）
中央執行委員（専）鈴木郁夫（総務・財政部長、貨物・組織・共闘担当）
"（専）小池敏哉（業務部長、総務担当）
" 星野高志（業務・貨物担当）
" 井村好博（政治・業務・調査担当）
会計監査員 内田昌裕・三宅明
（専）馬橋博一

一点目は、福島第一原発の事故から2年4ヶ月が経過し、7月7日に国労フクシマ放射能問題交流会による被災地視察に参加しました。福島第一原発から15キロ地点にある富岡町まで入りました。

国労フクシマ放射能問題交流会は、昨年11月24日に発足し、仙台地方本部と交流を続けながら放射能汚染に苦しめられている労働者や労働環境の改善を図り、若手社員と共に考え組織していくことにあります。同時に脱原発や震災復興の取り組みを強化しつつ急がなければなりません。本部の支援を要請します。

絞り交流してきました。9月21日を第3ゾーンの総括集会にし、残された期間に全機関が集中し組織拡大に繋げ、歓迎集会としていきたいと考えています。

山羽代議員が発言

二点目は、本部指令1号に基づき、地本は組織拡大目標と集中するゾーンを設定し、今日まで組対会議や行動を取り組んできましたが、成果はあるものの結果に結び付かない状況です。

最後に連合問題についてお聞きします。第80回定期全国大会で高橋委員長発言、濱中書記長の集約答弁、第81回定期大会での議論を経て、今大会でどの様な方向性を示すのかお聞かせ頂きたいと思えます。

「生活が再建できる賠償になっていない」「東電の隠蔽体質は変わっていない」と言うことでした。「健康管理については、全県民対象の検査を自治体に要望していく」という取り組み等について意見交換を行いました。

また、6月8日～9日に第10回職場活動家交流会を開催し、全体交流と分散会を中心にテーマを組織拡大に

お聞きします。第80回定期全国大会で高橋委員長発言、濱中書記長の集約答弁、第81回定期大会での議論を経て、今大会でどの様な方向性を示すのかお聞かせ頂きたいと思えます。